

# ITを用いたコミュニケーション力の育成

## － 鮎・犬・鹿3校の学校間交流学習 －

宮城県気仙沼市立鹿折小学校 教諭 熊谷 久恵

山形県川西町立 犬川小学校 教諭 鈴木 誠

山形県白鷹町立 鮎貝小学校 教諭 竹田 洋

### 1 はじめに

学校間交流学習をはじめよう：稲垣忠編著（日本文教出版）の中に次のようなことが載っている。「クラスの中なら当たり前のことも、相手の学校にはわからないことだったりする。おとなや地域の人であれば意味を汲み取ってくれたりアドバイスをもらえるところが、うまく伝わったのか定かでないもどかしさを感じることもある。自分の思っていること、言いたいことを、全く知らない相手に本気で伝えようとする経験がさせられるのである。」ここにあるように、まったく知らない相手に、本気で伝えようとする経験が今の子どもたちにとって必要であり、そのためにはITを用いた、学校間交流学習がもっとも効果的であると考へ、標記主題のもと3校による実践を行った。

### 2 3校、各クラスの概要

山形県白鷹町立 鮎貝（あゆかい）小学校	4年生 40名	山間部が多く、農業・果樹栽培の盛んな地域
山形県川西町立 犬川（いぬかわ）小学校	4年生 13名	平野部で水田が広がる地域
宮城県気仙沼市立鹿折（ししおり）小学校	5年生 32名	海・山・川・町のある地域で、白鷹町とゆかりあり

### 3 プロジェクトの概要

(1) ITを用いたコミュニケーション力の育成のための5つの視点

- ① 地域差・学年差を生かした学習プログラムの開発
- ② 鮎貝小・犬川小のと直接交流体験を生かした学習の展開
- ③ 交流を支えるコミュニケーションスキルの育成
- ④ コミュニケーション・ツールの効果的活用の工夫
- ⑤ 指導者間の連携体制の確立

(2) 実践の柱「鮎犬鹿プロジェクト」

3校それぞれに「地域の特産物」「お祭り」「水生生物」の3観点で調べ学習を行い、IT機器や直接交流等の手段を用い、異なる地域の児童が共に学ぶ活動を通して、コミュニケーション能力の育成を行っていく。

(3) プロジェクトの足跡及び今後の予定

月 日	活 動 内 容	備 考
5月	3校による交流開始。コンピュータスキルを高めることと、互いの自己紹介を兼ねて、NHK「たった一つの地球」掲示板を用いて学校紹介を行う。	第1回意識調査実施。指導者間でメール、MLによる情報交換を開始。
6月 17日	鮎貝小と犬川小で第1回直接交流を実施。名刺交換会、ゲーム、会食等顔合わせの後、社会科の一環で「千代田クリーンセンターゴミ処理場」見学。成果と感想をまとめた新聞の交換。	
7月	メインプロジェクト開始。3校それぞれに、地域の河川における「水生生物調査」を行い、記録する。地域の特産品、自己紹介カード交換。	指導者連絡会議（東北学院大学）
8月 6、7日		「D-p r o i n 宮城」及び指導者連絡会議参加、各校の様子と今後の見通しについて話し合う。評価規準の見直し。
9月	3校それぞれに、「地域の特産物」「祭りや文化」についての調査活動を行い、資料を集める。国語科と連携した取り組みを開始。	
10月	ホワイトボード共有システムやインターネットテレビ会議を用いて、学習のまとめを行う。学習の状況と内容について交流しあう。	
11月	鮎貝小と犬川小で第2回直接交流を実施。山形県の内陸（置賜）地方の「地域の特産物」「水生生物」「祭りや文化」について協働で成果物を作成し、鹿折小に伝える。	第2回意識調査実施。
12月	鹿折小とのテレビ会議・ホワイトボード共有システム活用による交流をもとに、まとめを行う。	12月1日「先進 IT 活用教育シンポジウム in 宮城」
2月	「雪国の暮らし（日本海側）と雪の降らない地域の暮らし（太平洋側）」テーマにテレビ会議で交流。	第3回意識調査実施。指導者連絡会議。成果と課題についてまとめる。
3月	テレビ会議等・ムービーレーターを交換し合い、今年度の取り組みを振り返り、お礼の気持ちを伝え合う。活動を振り返り、自己の成長に気付く。	





